

論文内容要旨

※整理番号	34	(ふりがな) 氏名	ふじの みつこ 藤野 みつ子
修士論文題目	エキスパートナースのキャリア発達に対するローテーションの意味		
<p>1. 研究目的</p> <p>エキスパートナースのキャリア発達に対するナースの職場配置転換（以下、ローテーション）の意味を明らかにする</p> <p>2. 研究方法</p> <p>役割理論の枠組みを用いた質的記述的研究を行った。3つの大学病院に勤務するエキスパートナース11名とまだエキスパート段階に達していないナース10名に非構成的面接を行った。面接内容から逐語録を作成し、2397の意味項目を抽出した上でKJ法を用いて面接内容の主題が明らかになるまで分類統合して7つのカテゴリーを抽出し、各カテゴリーに含まれる意味を解釈した後、モデルを作成した。</p> <p>3. 研究結果</p> <p>協力者が語った内容から、「安心する人間関係」「ローテーションの意義」「ストレスに感じたこと」「ストレス反応」「ストレス反応の結果」「肯定的評価」「否定的評価」の7つカテゴリーが抽出された。各カテゴリーは関係性をもって存在していた。</p> <p>4. 考察</p> <p>エキスパートナースがローテーションをすることは、エキスパートではないナースよりも役割ストレスの範囲が広く、ストレス反応も多様であり、役割適合の遅延がみられた。面接で得られたエキスパートナースに特徴的な内容は、以下の4点であった：1) ストレスに感じたことは、役割地位に対する役割過重、役割不明確、役割超過資格である。2) ストレス反応は、精神的ダメージ・顕在的な身体の変調・影響力の行使ができないジレンマがあり、ストレスに対応するために対抗行動をとっていた。3) ストレス反応の結果は、自信未回復・未だ不適応・まだ評価できないという役割不適合段階にある思い</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)

2. ※印の欄には記入しないこと。

(続紙)

を感じていた。4) 評価に関しては、否定的評価をする傾向があった。これらのことより、ローテーションは役割不明確を生み、エキスパートナースのキャリア発達を阻害する可能性があると思われた。

5. 総括

エキスパートナースのキャリア発達に対するローテーションの意味を明らかにすることを目的として、本研究を行った。ローテーションを経験した21名に面接して「ローテーションについての思い、感じたこと」を語ってもらい、その内容をKJ法を用いて分析した。結果、ローテーションはキャリア発達を阻害することがあると思われた。このことは看護管理上行われるローテーションのあり方に慎重な対応を示唆するものと思われる。今回の研究では、ローテーションがエキスパートナースに与える影響の一部を明らかにしたにすぎないが、今後は、協力者数を増やし、データの蓄積をしていくことで、ローテーションがエキスパートナースのキャリア発達に及ぼす影響をより明確にすることができると思われる。今後とも、ナースのマンパワーの質にこだわり、且つ現状を踏まえたローテーションのあり方を問いつづけ、患者ニーズに答える看護を探求していく必要がある。